

# IV

## 学部・研究科等による 取組み

---

### IV-1 千葉キャンパス

---

キャンパス共通事項 .....	89
総合福祉学部 .....	91
コミュニティ政策学部 .....	103
総合福祉研究科 .....	108



# 千葉キャンパス教育向上委員会

関連方針	2-2. 大学として求める教員像、教員組織の編成方針		
関連成果指標			
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月10日	担当組織確認日	2023年4月13日
----------	------------	---------	------------

- ① 学生の状況や大学改革の伸展に即したFDテーマを検討していく。
- ② 授業アンケートの結果を公開・フィードバックするとともに、学生からの評価が低い科目については、各学科長とも連携して担当教員への働きかけを行っていく。
- ③ 授業公開・相互参観は、引き続き実施していく。

## 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月18日	担当組織確認日	2024年7月22日
----------	------------	---------	------------

- ①
  - 2023年9月2日の全教員会内において「Chat GPTに対する大学教育の対応」をテーマとしたFDを開催した。講師は淑徳大学高等教育研究開発センターの杉原 亨准教授に務めていただいた。
  - 2023年11月2日、ハラスメント防止委員会と共催で「学生相談の現状と課題」をテーマとしたFDを開催した。講師は学生相談センター長の渡邊哲夫教授に務めていただいた。また、総合福祉学部齊藤崇教授、同岩井阿礼教授に指定討論者を務めていただいた。さらに、コミュニティ政策学部八田和子准教授による学習支援室の案内がなされた。

**根拠資料** ● 2023(令和5)年度後学期 淑徳大学千葉キャンパス 全教員会次第  
● 教育向上委員会・ハラスメント防止委員会共催FD研修 案内S-Navi配信文
- ②
  - 授業アンケートの結果は、非常勤教員を含めて全教員にフィードバックを行った。
  - 授業アンケートの結果を委員会内で共有し、学生からの評価が低かった科目、学生から授業改善の要望が出された科目について、当該科目担当教員の採用人事を行った学部の学部長ならびに学科長が聴き取りを行い、改善を要請した。

**根拠資料** 2023年12月7日第8回教育向上委員会議案書
- ③
  - 授業公開・相互参観は概ね順調に取り組まれており、2024年4月16日の時点で、総合福祉学部での完了率は95.7%、コミュニティ政策学部での完了率は100.0%となっている。公開・参観は実施されていても報告書が未提出の事例があったことから、報告書の提出を督促した。

**根拠資料** 2024年3月7日第10回教育向上委員会議案書
- ④ 関係委員会と共同でのシラバスチェックが適切に実施された。

**根拠資料**

## 3 点検・評価

Check

- ① 学生の状況や大学改革の進行に即したFDテーマを検討し、時宜に適ったテーマを設定し実施することができた。2023年9月2日実施の「Chat GPTに対する大学教育の対応」は、急速に普及した生成AIの課題を教員が把握することに寄与した。2023年11月2日に実施した「学生相談の現状と課題」は、退学予防に資するテーマであると同時に、2023年度に設置された学修支援室の役割について教員に周知する効果があった。
- ② 授業アンケートの結果は非常勤教員を含めた授業担当教員にフィードバックされた。授業アンケートの結果は委員会内で共有され、課題が見受けられた授業に関しては学部長、学科長からの聞き取りと指導につながり、授業改善に活用された。
- ③ 授業公開・相互参観は、概ね順調に取り組まれており、引き続き実施していく。
- ④ 関係委員会と共同でのシラバスチェックは適切になされ、引き続き実施していく。

- ① 学生の状況や大学改革の伸展に即したFDテーマを検討していく。
- ② 授業アンケートの結果を公開・フィードバックするとともに、学生からの評価が低い科目、学生からの要望があった科目については、学部長、各学科長とも連携して担当教員への働きかけを行っていく。
- ③ 授業公開・相互参観は、引き続き実施していく。

## 総合福祉学部（学生の受入れ）

関連方針	13. 入学者受入れの方針		
関連成果指標	6-6-1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月20日	担当組織確認日	2023年4月1日
----------	------------	---------	-----------

(1) 総合福祉学部の入学定員を確保する。(目標定員485名)

## ① 募集活動

- オープンキャンパスは、原則として対面式で行いより一層の充実化
- 高校訪問、校内ガイダンスへの積極的参加。(特に福祉系を強化)
- 進学相談会およびオンライン相談会の実施。高校教員向け説明会実施

## ② 広報活動

- 社会福祉学科におけるリーフレット作成およびDM送付、Web DM 配信
- 教育福祉学科教員採用告知チラシ作成およびDM送付
- HP ブログによる学部内のトピックスの配信強化

## ③ 入試制度

- 在籍や志願状況を評価したうえでの、学校推薦型選抜指定校の決定
- 入試説明動画のHP掲載
- オープンキャンパスにおける、入試説明会、対策講座の実施
- 各種試験区分におけるガイドラインの策定

## 2 計画の取り組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月18日	担当組織確認日	2024年3月18日
----------	------------	---------	------------

## ① 募集活動

- オープンキャンパスにおいて、学生プレゼンを全学科・全日程に取入れ、オリエンテーションの前後に実施した。来場者からは好評であり、アドスタッフのモチベーション向上にもつながっている。
- 千葉県内および通学圏内を中心とした進学相談会に積極的に参加した。特に、福祉分野を説明する系統別進路説明会を強化した。

根拠資料 オープンキャンパス実施要領、OC来場者アンケート結果

## ② 広報活動

- 社会福祉士を目指す高校生向けに、本学卒業生の活躍や資格取得へ向けた取組みと福祉系公務員を紹介したリーフレットを作成し、福祉系希望者に送付およびHPへ掲載。また、Web DM も配信した。
- 教員採用試験採用実績チラシを作成し、教育系学部希望者へDM送付した。

## ③ 入試制度

- 学校推薦型選別（指定校）への志願者増加に伴い、本学への在籍数及び志願実績などを考慮し、指定校推薦校を決定した。
- 2023年度入試説明動画を入試区分ごとに制作し、HPに掲載した。アニメーションを交えて制作し好評を得た。
- オープンキャンパス内で毎回異なる内容の入試対策講座を実施し、多くの来場者が参加し好評を得た。
- 一般選抜Aの合格判定において、優秀な成績の受験生の獲得に向けて、特待生奨学金枠の有効活用を行った。

## 3 点検・評価

Check

- 社会福祉学科の安定した定員確保に向けた検討を、社会福祉学科内にワーキンググループを設置して行い、学長に答申した。これに沿って、正課外プログラムによる、介護福祉士国家試験受験資格・保

育士資格取得・簿記2級・3級の取得支援を2025年度に向けて実現する計画を始動させた。

- ども家庭ソーシャルワーカー制度への対応に向けて、検討委員を定めて検討し、第1次答申を行った。

**根拠資料** 社福定員確保WG文書、ども家庭SW検討チーム答申

#### 4 改善方策及び改善計画

Action

第1部

IV 学部・研究科等による取組み

1

千葉キャンパス

##### ① 募集活動

- 満足度が高く活気溢れるオープンキャンパスにするため、学生主体のオープンキャンパスをより推進させ、学生プレゼン、キャンパスツアーを強化。また学科オリエンテーションは最新情報を盛り込み常に新しい情報を盛り込んだ。
- 引き続き福祉分野の校内説明会へ積極的に参加し、地方からの志願者確保が課題となることから、オンライン相談会、地方出張訪問も強化する。
- 千葉県福祉部会や教育連携校と長期的な連携を視野に、教育的支援および進路に関する連携を強化する。

##### ② 広報活動

- 一分動画を各学科にて制作し、学生の活動をPRしていく。
- 学科リーフレットの制作およびDM配信を積極的に行う。

##### ③ 入試制度

- 学校推薦型選抜（指定校）は安全志向の受験生が増加し需要が増している。高校毎の枠数の検討を行い、学校推薦型選抜の募集定員以上の受験者を獲得する。
- 入試制度の説明および対策は高校生にとって関心が高く、受験者育成の観点からも引き続き実施していく。
- 学校推薦型選抜（公募）の受験者数減少に対応して、社会福祉学科の応募基準（評定平均値）を2025年度入試から緩めることにした。
- 2025年度入試における受験者層の拡大・充実を期して、総合型選抜における探究学習型、基礎学力型を追加することにした。また、9月入試の試験会場に地方会場（新潟）を加えることにした。

## 社会福祉学科 (教育課程)

関連方針	12-2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標	1-8-1、6-6-1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月9日	担当組織確認日	2023年4月15日
----------	-----------	---------	------------

- 2023年度は3つのカリキュラム（4年生の旧カリキュラムと2・3年生の中カリキュラム、1年生のS-BASICでの新カリキュラム）同時開講となる。閉じる科目、新たに開講する科目について、学科FD等を通じて考えられる留意事項を検討していく。GPAによる履修追加基準がC2生の後期履修次より変更されるためアドバイザーの履修指導について学科で確認していく。
- 入学定員確保を目的とした正課外教育を活用したプロジェクトやキャリア支援センターとの連携によるプロジェクトなどが円滑に進められるよう学科でワーキンググループを設置して対応していく。
- 国家試験受験対策室の体制（学生への支援・eラーニング・職員の契約）を安定したものにす。
- 教員からの面接通知に応じない学生への支援や対応については引き続き課題として検討していく。
- 編入希望学生、外国人編入希望学生（2年次後期入学生等がいる場合は学部長、国際交流センターと連携しながら対応していくとともに、協定校とも連携を図る。

## 2 計画の取り組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月14日	担当組織確認日	2024年3月14日
----------	------------	---------	------------

- C1学生から専門教育科目カリキュラムが変更となる。そのため2024年度に向け、C0以前の学生の履修に不利益がないよう、資格課程として実習担当、教務担当、学科長等で連携し閉講科目を検討した。またC3学生の履修指導（特に履修追加登録）については、後期全教員会の社会福祉学科分科会や社会福祉学科会議の場を用いて、教員全体の理解をはかった。

**根拠資料** 2023年度第5回社会福祉学科会議資料

- 2023年7月3日付で学長に、社会福祉学科から定員確保策に関する報告書を提出。その後2023年8月6日付で学長から、概ね左記報告書どおりに教職協働で実施するようという文書を受けた。2023年10月1日より、社会福祉学科教員、総務、アドミッション、学事部との協働による社会福祉学科定員確保のためのプロジェクトチームを発足させた。

**根拠資料** 2023年7月3日付「社会福祉学科の安定した定員確保に向けた検討結果」

2023年8月6日付「社会福祉学科の安定した定員確保に向けた検討結果の実施について」文書

- 2023年度は従来の国家試験受験対策を実施しつつ、2024年度からは国家試験科目が変更されることをふまえ、eラーニングの方法や正課外での受験対策のあり方について、国家試験受験対策室メンバーで集中的に議論を行った。④の教員からの面接通知（ここでの意味は、国家試験受験対策上での面接通知）に応じない学生に対しては、ゼミ担当教員に指導協力を求めるべく、社会福祉学科会議で情報共有を行った。

**根拠資料** 2023年度国家試験受験対策室運営会議資料、2023年度社会福祉学科会議資料

- 2023年度は、外国人編入希望学生は0人、2024年度入学志望の編入学生は1名だった。

**根拠資料** 2023年度大学協議会資料等

## 3 点検・評価

Check

- 2024年度閉講科目の検討や、C3学生からのGPA追加履修登録については、特に大きな混乱はなく実施することができた。とはいえ、資格課程別となる履修モデル、C3生からのS-BASIC導入での卒業要件単位の変化については、引き続き学科教員で理解をしていくようにする。
- 可能な限りの手を尽くしたつもりであるが、2024年度社会福祉学科入学生の定員を満たすことはできなかった。2023年度末には大学として小学校2種免許課程の申請を行っていきが、その申請が通

過した際には、教職協働で定員確保に努めていく。

- ③、④ 国家試験受験対策について、2023年度の実績として、社会福祉士で新卒110名合格（合格率79.7%）、精神保健福祉士で新卒8名合格（合格率100%）であった。2024年度から国家試験の出題科目や出題範囲が変更になる。新しいなかでも成果を出せるよう、社会福祉学科、国家試験受験対策室との連携を強化していく。
- ⑤ 2024年編入外国人学生はいなかったが、複数回の中国や台湾の大学からの訪問に対応してきた。今後も引き続き、国際交流センターと連携をとりながら対応をしていく。

#### 4 改善方策及び改善計画

#### Action

- ① 社会福祉学科の定員確保に向けての種々の取組みを行う。第一に2025年度入学生からの社会福祉士受験資格と小学校二種免許のコース設置のための準備と、広報を行う。
- ② 定員確保のための策として、①のほかに2025年度入学生からは保育士、介護福祉士の正課外プログラム、簿記2、3級の社会福祉学科正課外クラスを開講する。2024年度募集においては正課外で資格取得が目標をアピールしていく。
- ③ 社会福祉士・精神保健福祉士受験対策の充実に向けた取組みを行う。2024年度からの試験科目等の変更にあわせ、eラーニング、正課外プログラムにおける教育内容の一層の充実、外部講師の招聘など、受験対策プログラムの充実をはかっていく。
- ④ 安心して学生が学べる環境をつくる。例えば、これまでも大学として取組みが続けられているハラスメントの防止のほかにも、成年年齢が18歳へと変わったことに伴う消費トラブルなどへの注意喚起も行っていく。

## 教育福祉学科 (教育課程)

関連方針	12-2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標	1-8-1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月10日	担当組織確認日	2023年4月7日
----------	------------	---------	-----------

- ① 教職課程におけるICT活用指導力の育成という点で、学生自らが経験的に理解するための重要な機会であることを念頭に置き、講義におけるICTを活用した指導を充実させる。
- ② 資格・免許取得に向けた履修指導と学修指導の充実のため、ポートフォリオ・ルーブリック等を用いて行う半期ごとの学生面談において、100%の実施を目指す。また、アドバイザーによる履修指導を充実させる。
- ③ 学生が大学生活に適應し、退学や休学に至ることのないように、サークル活動、カレッジアークラス活動、ゼミ活動等への積極的な参加を促す。
- ④ 学習成果の可視化や教学マネジメント、実践的な指導力の向上を目指し、学科FDを効果的に実施することに努める。
- ⑤ 保育職・教職のキャリア支援のため、保育・教職課程センターとの連携を高め、採用試験の新たな動きに対応すべく情報収集に努める。
- ⑥ 免許・資格取得に重要となる実践的な学びを充実させるため、保育・教職課程センターと連携しながら、学校ボランティア活動の指導を軌道に乗せていく。
- ⑦ 教職課程運営委員会との連携の下、各課程の教育内容の充実をはかる。

## 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月14日	担当組織確認日	2024年3月14日
----------	------------	---------	------------

- ① 教職課程の指導法、教職実践演習の科目において、昨年度に引き続き、ICTの活用について授業シラバスへの記載について徹底し、講義におけるICTを活用した指導の充実を図ることができた。  
根拠資料 2023年度授業シラバス、教育福祉学科議事録
- ② 1年生については、教職体験研究の中で、ポートフォリオ、ルーブリック評価の活用について、その意義や具体的な記入方法について説明を実施した。また、1年生～4年生まで、前学期分のポートフォリオの確認を各アドバイザーが9月中旬～12月初旬にかけて実施した。さらに、後学期分のポートフォリオの確認は3月下旬～4月にかけて実施する予定である。  
根拠資料 教育福祉学科会議議事録
- ③ 休学・退学の抑制につながる指導が展開できるために、必要に応じてサークル活動、カレッジアークラス活動、ゼミ活動等に参加・出席を促し、学科会議で学生情報の共有を実施した。また、それらの魅力ある工夫された実践は、大学HPのShukutoku Picksに掲載することで、できるだけ見える化するようにした。さらに、学生が大学生活に適應し、退学や休学に至ることのないように、学科FDにおいて、2月15日に「教育福祉学科における学生支援」を実施した。  
根拠資料 教育福祉学科会議議事録、大学HP
- ④ 学習成果の可視化や教学マネジメント、実践的な指導力の向上を目指し、教育福祉学科FD研修会は、年4回実施した。9月30日「教育福祉学科における教学面での現状と課題について」、7月13日「研究授業(特別支援教育概論B)」、2月15日「教育福祉学科における学生支援」、3月30日「教育福祉学科における学生支援や学修支援の方策について」をそれぞれ実施した。  
根拠資料 教育向上委員会「2023ファカルティ・ディベロップメント成果報告」
- ⑤ 保育職・教職のキャリア支援のために、保育・教職課程センターとの連携のもと、次年度、教員採用試験に関する3年次からの受験が可能となる新たな動きの情報収集結果を学科と情報共有を行うとともに、今年度、採用試験結果についても学科、キャリア教育支援センター・アドミッションセ

ンターと情報共有することができた。

**根拠資料** 2023年度採用試験結果（アドミッションセンター千葉オフィス作成）

- ⑥ 保育教職課程センター（ボランティア部門）との連携のもと、2年次生に向けた学校ボランティアの説明会を開き、希望する2年生にボランティア先の配置を行った。その上で、学校ボランティア活動の指導について軌道に載せることができた。

**根拠資料** 教育福祉学科会議議事録、保育教職課程センター議事録

- ⑦ 教職課程運営委員会や教育実習運営委員会、幼保実習運営委員会と連携を図りながら、教職課程の教育内容の充実に向けて、着実に改善を図ることができた。今年度は、特に、文部科学省の特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムに基づくカリキュラム改訂を実施し、2024年1月に文部科学省へ変更届の提出を終えることができた。

**根拠資料** 教育福祉学科会議議事録

### 3 点検・評価

Check

- ① 教職課程においてICT活用が必要な科目においてICTを用いた授業が実施されていることをシラバス等より確認することができた。しかし、実施状況の数値的把握や、その効果の検証までには至らなかった。
- ② 前期分のポートフォリオ点検は、実施率90.9%（2022年度前学期87.7%）であり、今年度後学期分の点検は4月中旬までに終える予定である。全学生の教育指導の機会としてとらえ、引き続き100%を目指したい。
- ③ 1年次・2年次のカレッジワーククラス活動やゼミ活動では、大学HPのShukutoku Picksに掲載しているように、クラスや課程、ゼミによってさまざまな活動が工夫が施され、実践されて、学生の大学生活への適応力を高めていると見受けられる。ただし、退学や休学の抑止として、サークル活動、ゼミ活動等への積極的な参加と退学との相関を測る数値的な資料に恵まれない憾みがある。参考ではあるが1年生必修科目履修者における10月時点でのサークル活動への加入率は約6割と、回復傾向がみられ、今年度の退学・休学についてもある程度、抑止された数字となっている。
- ④ 学科のFD研修会は例年通り、都合4回実施することができた。喫緊の課題を取り上げ、教育力の向上に資することができている。
- ⑤ 保育職・教職のキャリア支援のため、毎回の学科会議において保育・教職支援センター、キャリア教育支援センターからの報告がなされて、情報を共有し、教員間での連携を高めることができた。
- ⑥ 保育・教職課程センターを中心とする学校ボランティア活動が定着してきた。また、学びの充実にむけて、本取組みを軌道にのせ、学科とセンターが連携をとるという形が形成された。
- ⑦ 教職課程運営委員会や教育実習運営委員会、幼保実習運営委員会から報告を受けながら連携をとり、その時々における教職課程の教育内容の充実に向けて、全学・学部の方針に基づいた学科の意向の反映がさらに重要となっている。

### 4 改善方策及び改善計画

Action

- ① 教職課程におけるICT活用指導力の育成について、経験的に理解するための重要な機会であることを念頭に置き、さらなる講義におけるICTを活用した指導を充実させる。
- ② 資格・免許取得に向けた履修指導と学修指導の充実のため、ポートフォリオ・ループリック等を用いて行う半期ごとの学生面談において、100%の実施を目指す。また、アドバイザーによる各種相談や履修指導の機会を充実させる。
- ③ 学生が大学生活に適応し、退学や休学に至ることのないように、サークル活動、カレッジワーククラス活動、ゼミ活動等への積極的な参加・出席を促し、カレッジワーククラスにおいては、仲間意識の醸成を目的とした工夫を実施する。
- ④ 学習成果の可視化や教学マネジメント、実践的な指導力の向上を目指し、学科FDを効果的に実施することに努める。
- ⑤ 保育職・教職のキャリア支援のため、保育・教職課程センターとの連携を高め、教員採用試験の新たな試験制度に対応していく。
- ⑥ 免許・資格取得に重要となる実践的な学びを充実させるため、保育・教職課程センターと連携を強化しながら、学校ボランティア活動のさらなる充実に向けて指導に協力していく。

## 実践心理学科 (教育課程)

関連方針	12-2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標	1-8-1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月9日	担当組織確認日	2023年4月13日
----------	-----------	---------	------------

- 2023年度はS-BASICが始まるため、これまで同様の専門科目の点検と併せて確認を行っていく必要がある。心理学の全体的知識をどのように提供していくのか、正課と正課外を含めてその方法について検討していく。
- 資格試験への対応と学科内での学びの充実の両立ができるように、大学院での具体的取組みも含めて、関係教員間で協議を重ねていく。
- 新型コロナウイルスへの対応・対策が落ち着いてきたため、技能修得に関する評価の場となる卒業研究発表会の方法が一貫する予定である。その中でどの程度の時間を使い、どのような手法で評価を行うのか、学科FD等を通じて検討を行う。

## 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月14日	担当組織確認日	2024年3月14日
----------	------------	---------	------------

- 新カリキュラムにおける専門科目の課題については、学科会で随時共有を行う。また正課・正課外を含めて、心理学の全体的知識をどのように提供していくのかについて検討するために、学科FDの機会を設けた(②と連動させて実施)。  
根拠資料 実践心理学科FD資料
- 学科内での学びの充実をはかりながら、資格試験や大学院進学をサポートする体制ができるよう、関係教員間で協議を重ねるとともに、学科FDでも検討する場を設け、またキャリア支援センターとの連携もすすめた。  
根拠資料 FD成果報告書、正課外教育プログラム実施計画書
- 実践心理学科の学びの集大成である卒業研究発表会の実施方法、評価方法について、学科会で確認・検討を行った。  
根拠資料 学科会資料、実践心理学科卒業研究ポスター発表会プログラム

## 3 点検・評価

Check

- カリキュラム変更に伴い、現状の学科内開講科目のみでは心理学に関する十分に体系的な知識を提供しきれておらず、他学科で履修する科目と心理学科目との関連性や受講年次などが、最適という訳ではない点は依然として懸念事項である。また「心理学総合演習」が通年開講になったことで、休学した学生に柔軟な対応が難しくなった。次年度以降のカリキュラム検討時の考慮点としたい。
- 学科FDで、学生の現状と課題を確認し、これまでの正課での心理学の学びを定着させる講座と、主に心理専門職について、正課では伝えきれていない面を補う正課外講座を企画し、2024年度から申請した。また心理学における学びの成果の証にもなり、大学院進学にも有用である心理学検定の試験対策講座の開催をキャリア支援センターのバックアップを得て、2024年度から開催することとなり、2つの新しい正課外講座から対策講座への流れが、学生にも分かりやすいものとなるよう、整理した。
- 卒業研究発表会の実施方法と評価方法は、コロナ前の形式に戻すことができ、定着してきているが、かけられる時間が十分にはないという問題点は保留となっている。改善に向けて、次年度検討したい。

## 4 改善方策及び改善計画

Action

- あらためて新カリキュラムにおける専門科目の点検を行い、今後のカリキュラム編成についての課

題と改善方法を検討する。

- ② 新しく立ち上げた2つの正課外講座と受験対策講座の成果を振り返り、正課との関連性を含め、学科内の学びの充実と、資格取得を目指した大学院進学をサポートとしての今後の方向性について検討する。
- ③ 卒業研究発表会の意義と課題をあらためて確認する機会を設け、評価の仕方を含め、よりよい実施方法を探る。

## 教務委員会

関連方針	12-2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標			
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月3日	担当組織確認日	2023年4月1日
----------	-----------	---------	-----------

- 2023年度以降は新型コロナウイルス感染症が5類分類となるが、継続して感染防止と授業展開を両立させるために、関係各部署との緊密な連携のもと、情報を共有していく。
- 2023年度からは履修規程やGPA制度が改訂されるため、アドバイザーがより丁寧な履修指導が可能となる仕組みの検討が求められる。アドバイザーに学生個々の履修指導を丁寧に行っていただけるよう、学生厚生委員会等と連携をとっていく。
- 留学生対応に関しては、国際交流センターやアドバイザーと連携の上、的確な履修指導を行えるようにしていく。障がいのある学生が授業において不利益が生じないよう、教員に対する配慮依頼を行うとともに、学生厚生委員会や地域支援ボランティアセンター等と連携の上、ノートテイク実行委員会と支援の調整を行っていく。
- 編入希望学生がいる場合には、学部長・学科長・国際交流センター等と連携しながら、業務を行っていく。
- シラバス記載内容を精査するとともに、しかるべき時期にFDを実施し、教員への周知を図る。

## 2 計画の取り組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月15日	担当組織確認日	2024年3月15日
----------	------------	---------	------------

- 2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが2類相当から5類の位置づけとされることとなった。それにむけて学生厚生委員会と連携し、厚生労働省、文部科学省等の発出する情報を整理するとともに、他大学、他キャンパスの状況を確認の上、安全対策実施本部会議に働きかけた。混乱なくかつゆるやかに以前の教育活動に戻すこととした。感染症への注意は呼びかけつつ、後学期にはコロナ禍以前の状況に戻った。  
**根拠資料**
  - 4月教務委員会資料
  - 4月千葉キャンパス安全対策実施本部会議資料(2023年度新型コロナウイルス5類移行に向けたキャンパスごとの対応比較表、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更後の学生生活について(5月8日以降))
- 全学共通基礎教育科目(S-BASIC科目)、補充授業、新・追加履修制度など2023年度入学生から新しい教育システムが導入されることとなった。これら新教育システムについて教授会報告やS-Naviによる配信を通じて、教職員に十分に説明した。また、学生に対しては教務オリエンテーションにおいて説明を行った。  
**根拠資料**
  - 7月・2月教務委員会資料(履修登録日程、履修登録チェックシート、2023年度追加履修登録に係るご依頼、2023年度追加履修登録に係るご案内(事前連絡))
- 留学生への対応は、国際交流センターやアドバイザーと連携の上、履修指導を行うようにした。また、障がい学生が授業において不利益が生じないよう学生サポートセンターから教員に対して配慮依頼を行った。また、状況に応じて教務委員長が障がい学生との面談を行い希望する配慮について聞き取るなど対応した。教授会においてはこれらの情報を周知した。  
**根拠資料**
  - 4月・9月教務委員会資料(授業中における障がい学生等配慮のお願い、障がい学生に対する授業および試験方法に関するガイドライン 前・後学期共通)
- 2024年度入学予定の編入生について、1名の合格者が入学手続きを完了した。教務委員(編入学生担当)が当該編入生の入学準備として、科目読替に係る手続き、編入生オリエンテーション、履修指導等を行った。  
**根拠資料**
  - C2編入生関係スケジュール、オリエンテーション次第、C2編入の手引

- ⑤ 下記期間にシラバス作成に関するFDの実施及びシラバスチェックを教学委員会、教育向上委員会の共催で実施した。2024年度における主要授業科目・遠隔授業対象科目への表記、実務家教員に関する調査等について各種変更事項について適切に周知及び管理を行った。

- シラバス作成に関するFD 2024年1月18日～2月1日（オンデマンド）
- シラバスチェック 2024年3月5日～3月7日

**根拠資料** ● 1月・2月教務委員会資料（2024年度シラバス作成方法に関するFD次第、シラバス作成要領等の説明、主要授業科目と遠隔授業対象科目について、2024年度シラバスチェック方法検討会議（事前打合せ））

### 3 点検・評価

### Check

- ① 新型コロナウイルス感染症に関する厚生労働省、文部科学省等の発出する情報や他機関の動向を精査することによって、また関係機関との連携によって、教職員や学生の不安もふまえつつ対応したため、ゆるやかに平常時の教育活動に戻すことができた。また、感染症の取り扱い（出席扱い等）の変更についても周知徹底できた。
- ② S-BASIC科目、補充授業、新・追加履修制度など2023年度入学生から適用される新しい教育システムについて教授会報告やS-Naviによる配信を通じて教職員に十分に説明することによって、アドバイザー担当教員が学生に対して適切に指導することができたと思われる。ただ、新制度と旧制度が同時に進行しているため若干混乱がみられ個別対応の必要が生じた。
- ③ 「修学支援申請書（配慮願）」により、申し出がなされた学生に対し教務委員長又は教学委員長と教務事務担当同席の元、建設的対話を通して、学生の申し出と大学組織として配慮可能な配慮の範囲について相互確認を行うことができ、当該学生の修学上の懸念を解消することができた。
- ④ 編入生に対する入学前からのサポートについて、アドミッションセンターと連携の上、科目読替対応・オリエンテーション実施・履修登録準備等について遺漏なく行うことで、編入生がスムーズに入学に向けた準備を整えることができた。
- ⑤ FDを通じてシラバスに含めるべき事項及び記入上の留意事項について周知することができた。

### 4 改善方策及び改善計画

### Action

- ① 2024年度から遠隔授業やブレンド型授業が一部実施されるが、必要に応じてその成果について検証する。また、高等教育改革をめぐる動向をふまえた各種対応も教務委員会で適宜行う。
- ② S-BASIC科目、補充授業、新・追加履修制度など2023年度入学生から適用される新しい教育システムとそれ以前の教育システムとが同時に進行していくことになるが、教職員や学生の間に混乱のないよう教授会報告やS-Naviによる配信を通じて、引き続き新教育システムの周知徹底をはかる。また、それらの教育成果について適宜検証していく。
- ③ 留学生、障がい学生など特別な配慮が必要な学生に対してきめ細やかな支援ができるよう学生厚生委員会及び学生サポートセンター等と連携し、個々の置かれた状況に応じて適切な配慮ができるよう工夫する。
- ④ 編入学生希望者に対しては、個々の置かれている状況に応じて教務委員（編入学生）を中心に対応する。
- ⑤ FDにおいて、履修登録や学修に活用できるシラバス作成に資するように、シラバスチェックにおいて指摘されることが多い事項を中心に説明する。適宜、文部科学省の通知等が求める内容も取り入れる。

## 実習教育センター運営委員会

関連方針	12-2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標			
前回点検評価実施年度	2023年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月7日	担当組織確認日	2023年4月27日
----------	-----------	---------	------------

- ① センター事務職員の業務増に対して、業務の分掌およびスリム化を教職協働の観点から相互に検討する。  
特に来年度から正課外講座の一部の業務がキャリア支援センターから移管されるため、その業務量を測り業務の分掌を点検する。
- ② 各実習運営委員会間の連絡・調整や情報の共有化等を図るため、必要に応じて対面方式での運営委員会を開催する。
- ③ 新型コロナウイルスへの対応・対策として、実習施設から検査を求められた場合の対応としては、今年度と同様に、センターで検査キットを購入して対象学生に実施する。
- ④ 今年度制定した「総合福祉学部の各実習における麻疹対策に関する申し合わせ事項」の方法で、学生への指導が十分であるか否かをモニタリングする。

## 2 計画の取り組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月4日	担当組織確認日	2024年3月7日
----------	-----------	---------	-----------

- ① 今年度の新規業務としては、正課外講座の一部の業務がキャリア支援センターから移管された。申請業務は「特別支援学校教諭免許状に係る教職課程認定基準等の改正に伴う課程認定申請」を実施。それを踏まえて、業務の分掌およびスリム化について運営委員会で検討した。  
**根拠資料** 2023年度実習教育センター運営委員会議事録、2023年度履修の手引き
- ② 業務のスリム化を図るため、対面方式での運営委員会は4回実施し、それ以外の報告事項や事務連絡はメール等で済ませた。また、運営委員会において各実習運営委員会で報告された学生の状況を共有化した。  
**根拠資料** 2023年度実習教育センター年報、実習教育センター運営委員会議事録
- ③ 新型コロナウイルスへの対応として、実習施設から検査を求められた場合は、センターで購入した医療用抗原検査キットを対象学生に実施した。  
**根拠資料** 2023年度実習教育センター運営委員会議事録
- ④ 「総合福祉学部の各実習における麻疹対策に関する申し合わせ事項」に基づいて、学生から「麻疹検査の接種届け出書」の提出指導を実施した。  
**根拠資料** 2023年度実習教育センター運営委員会議事録
- ⑤ センター運営委員会が所管する業務で、「建学の精神を基盤とした教育の推進」を具現化できる事項について検討した。具体的には、社会福祉士課程（相談援助実習委員会）の「実習の手引き」には、実習教育の礎を創った学祖の言葉と説明文を掲載しており、学生の羅針盤となっている。これを全資格免許課程の「実習の手引き」（新規印刷分から）に掲載することにした。  
**根拠資料** 2023年度実習教育センター運営委員会議事録、各課程の実習の手引き

## 3 点検・評価

Check

- ① 正課外講座の一部の業務が移管されたが、その業務量はかなり多いものであった。また、新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着き、業務もコロナ拡大前に戻ったが、前年度業務との比較は難しいため、今年度は職員の人員増の要求はしなかった。（ただし、特任職員の専任職員への変更は要求している）
- ② 運営委員会は毎月開催でなく、必要に応じての対面方式で問題なかった。
- ③ この方法で問題なかったため、来年度も同様に検査キットの購入で対応する。

- ④ 「総合福祉学部の各実習における麻疹対策に関する申し合わせ事項」の制定により、全ての実習に統一した方法で実施することになった。そこで運営委員会にて、社会福祉学科と教育福祉学科の提出指導の問題点と改善点を検討した。
- ⑤ 全資格免許課程の「実習の手引き」等に、実習教育の礎を創った学祖の言葉と説明文を掲載することを年度当初に決定したが、その進捗状況をセンター運営委員会で点検したところ、全資格免許課程において実施されたことを確認した。

#### 4 改善方策及び改善計画

*Action*

- ① センター事務職員の業務増に対して、業務の分掌およびスリム化を教職協働の観点から相互に検討する。特にキャリア支援センターから移管された正課外講座の業務、免許資格に関わる恒常的申請業務の業務量を測り業務の分掌を点検する。さらに、それをもとに職員増の要求の必要性を検討していく。
- ② 各実習運営委員会間の連絡・調整や情報の共有化等を図るため、必要に応じて対面方式でのセンター運営委員会を開催する。
- ③ 新型コロナウイルスへの対応として、実習施設から検査を求められた場合の対応としては、従来と同様に、センターで医療用抗原検査キットを購入して対象学生に実施する。
- ④ センター運営委員会にて検討した、社会福祉学科と教育福祉学科の提出指導の問題点と改善点を、「総合福祉学部の各実習における麻疹対策に関する申し合わせ事項」の規程に反映させていく。
- ⑤ 引き続き今年度も、全資格免許課程の「実習の手引き」等に、実習教育の礎を創った学祖の言葉と説明文を掲載する。

## コミュニティ政策学部 (学生の受入れ)

関連方針	13. 入学者受入れの方針		
関連成果指標			
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

### 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月31日	担当組織確認日	2023年4月1日
----------	------------	---------	-----------

- ① 本学科受験生に関する各情報の把握・分析
- ② 本学科に関する積極的な情報発信
- ③ 受験生の満足が得られるオープンキャンパス等の実施

### 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月22日	担当組織確認日	2024年3月22日
----------	------------	---------	------------

- ① アドミッションセンター等と連携して、これまでのコミュニティ政策学科の受験生の傾向、一般入試受験者等の併願先の把握等に努めた。また、アドミッションセンター千葉オフィスの立木氏を招き、学科FDを開催した。  
根拠資料 学部教育指導連絡会
- ② オープンキャンパスや業者主催の高校教員対象入試説明会等を通じ、入学試験等の情報はもちろん、コミュニティ政策学科の取組み内容等を積極的に発信した。また、Shukutoku Picks、チラシ、ダイレクトメール等を通じて、公務員試験対策講座の内容や公務員合格者のインタビュー記事を掲載するなど、公務員を志望する受験生に対しても幅広く発信した。  
根拠資料 大学協議会学部報告、Shukutoku Picks
- ③ オープンキャンパスを例年通り実施した。内容は、オリエンテーション、模擬授業、学生プレゼンテーション、入試対策講座、個別相談等を実施した。  
根拠資料 大学協議会報告資料

### 3 点検・評価

Check

- ① 入学者は96名となり、101.0% (定員充足率(入学者/定員数))となった。ただし、目標の111名に届かなかった。近年の傾向通り、総合型選抜や学校推薦型選抜等による入学者の割合が高かった。また、コミュニティ政策学科の受験生の傾向、一般入試受験者等の併願先の把握等を行い、大学入学者選抜の基本方針に基づき、年内入試での受け入れを強化した。
- ② コミュニティ政策学科の取組み内容等を積極的に発信した。特に、公務員志望の受験生に対しては、これまでの合格実績、公務員試験対策講座の内容、メンター制度の活用等を説明する他、個別相談を実施するなど、より積極的かつきめ細かな対応を行った。さらに、いわゆるコミュニティ政策学科の4分野(社会学、経済学、法律学、政策学)とコミュニティ政策との関わりを短時間で収録した動画、在学生と卒業生とのクロストーク動画、サービスラーニングセンター、公務員試験対策講座の動画等、オンラインコンテンツを制作して、コミュニティ政策学科の多様な学修内容等を積極的に発信した。情報発信の内容は充実していたと思われるが、結果に鑑みて、内容、発信先、発信ツールを再検討する必要がある。
- ③ 前年度と比較して、来場者数は微減した。学生プレゼンテーションはリアルな学生生活に触れる機会として、受験生にとっても好評であった。また、アドミッションスタッフとの連携は、受験生の満足を得る上では重要な要素であるといえる。

### 4 改善方策及び改善計画

Action

- ① 本学科受験生に関する各情報の把握・分析し、入学定員を確保する。
- ② 本学科の教育に関する積極的な情報発信
- ③ 受験生の満足が得られるオープンキャンパス等の実施

## コミュニティ政策学科 (教育課程)

関連方針	12-2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標	1-8-1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

### 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月15日	担当組織確認日	2023年4月15日
----------	------------	---------	------------

- ① 学科FD等における教員間の情報共有・情報交換の他、授業アンケート結果等の共有化を通じて、組織的に一層の授業改善を図る。
- ② 学修成果の実情把握に資するツールとして「学士カールブリック」や「実践科目用ループブリック」の活用を促進させるとともに、必要に応じてループブリックの改善と分析方法の検討を行う。
- ③ 科目間の実質的な連携が図られる具体的手段・方法について、学部教育指導連絡会等で検討する。
- ④ コロナ禍において学外で安全・安心な環境下で実践的な活動が行えるよう体制づくりを行うとともに、学生の学修機会を保障する。また、学外での実践的活動の取組みの成果を学内・学外を問わず、地域社会に還元する方策を検討する。

### 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月18日	担当組織確認日	2024年3月18日
----------	------------	---------	------------

- ① 大学共通FD研修会や高等教育研究開発センターFDの他、前期及び後期の全教員会分科会では本学科における教務・学生厚生に関する現状と課題に関する意見交換等を行った。また、学科FDとして、本学科における休学・退学念慮に関する対応の他、学部の学びとキャリア支援・キャリア形成に関して、専任教員間で意見交換等を行った。  
根拠資料『教育向上委員会報告書』(教育課程別部会によるFD研修)
- ② 実践科目用ループブリックは、一部の実践科目及びサービスラーニングセンタープログラムにおいて活用された。例えば、四街道市役所(みんなで地域づくり推進)プログラムでは、ループブリックを通して、プログラム終了後にこれまでの活動内容を振り返るとともに、参加学生による自己評価を通して、今後の正課科目の学びの充実化やキャリア形成に資するものとした。  
根拠資料『淑徳大学サービスラーニングセンター年報』(サービスラーニングセンター活動事業報告)
- ③ 上述した前期及び後期の全教員会分科会の他、毎月、教授会終了後に開催される学部教育指導連絡会において、授業運営上の諸課題や学科生の修学状況の共有化等を行った。  
根拠資料「2023(令和5)年度 前学期・後学期淑徳大学千葉キャンパス・千葉第二キャンパス全教員会次第及び配布資料」
- ④ 本学科の実践科目をはじめとして、学生の学修状況、学外活動の取組みとその成果については、大学ホームページ(Shukutoku Picks、学科ページ)等を通じて対外的に発信した。また、実践科目や正課外活動(サービスラーニングセンタープログラム)の諸活動に関しては、淑徳大学サービスラーニングセンター年報にて継続的に記録されている。さらに、在校生の学修内容を映像化した動画を制作の上、学科ホームページに掲出し、学外での実践的活動の取組みの成果を積極的に発信した。  
根拠資料『淑徳大学サービスラーニングセンター年報(第14号)』、大学ホームページ(Shukutoku Picks)

### 3 点検・評価

Check

- ① 前期及び後期の全教員会分科会や学科FDにおいて有益な情報共有の他、本学科における現状と課題の把握を行うことができた一方、授業アンケートの分析に関しては、本学科生に特化した具体的議論には至らなかった。
- ② 実践科目用ループブリックについては、一部の実践科目やサービスラーニングセンタープログラムでの利用に留まった。引き続きループブリックの利活用について検討を進める。
- ③ 今年度より開始されたS-BASIC科目を含め、本学科の新たな学びの展開について、教務の観点から兼任講師を交えた意見交換の場を設けた。また、アフターコロナの観点を踏まえた授業運営上の課

題や工夫を相互に意見交換し、各教員から寄せられた好個な事例を共有することにより、各教員の授業改善の一助となる機会となった。

- ④ 実践科目報告会については、他クラスの取組みを継続的に確認できる機会を提供するため、オンラインによって開催した。学外での実践的活動の取組みの成果の可視化については、学科ホームページ等に掲出するなどして、引き続き積極的に発信することとする。

#### 4 改善方策及び改善計画

Action

- ① 学科FD等における教員間の情報共有・情報交換の他、授業アンケート結果等の共有化を通じて、組織的に一層の授業改善を図る。
- ② 学修成果の実情把握に資するツールとして「実践科目用ルーブリック」等の利活用を促進させるとともに、必要に応じてルーブリックの改善と分析方法の検討を行う。
- ③ 科目間の実質的な連携が図られる具体的手段・方法について、学部教育指導連絡会等で検討を進める。
- ④ 学外での実践的活動の取組みの成果を学内・学外を問わず、地域社会に還元する方策を具体的に検討する。

# コミュニティ政策学部教学委員会

関連方針	12-2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針		
関連成果指標			
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月3日	担当組織確認日	2023年4月15日
----------	-----------	---------	------------

- ① 新型コロナウイルス感染症は、2023年度5月以降、感染法上5類に位置づけられることになったが、引き続き学内における感染防止と対面授業形態による授業展開を両立させるため、関係部署と緊密に連携していく。
- ② 2023年度から履修規程やGPA制度が変わるため、アドバイザーにより丁寧に履修指導を行っていただけよう、学生厚生委員会等と連携していく。
- ③ 留学生に対してはアドバイザーや国際交流センターと連携し、適切な履修指導を行っていく。障がい学生に対しては、教員に対して配慮依頼を行うとともに、学生厚生委員会等と連携の上、ノートテイク実行委員会と授業保障の調整を行っていく。
- ④ 編入生が入学する場合には、学部長・学科長・国際交流センター等と連携しながら、教務業務を行っていく。  
引き続き内部質保証の観点からシラバス記載内容を精査するとともに、しかるべき時期にFDを実施し、教員への周知を図る。

## 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月18日	担当組織確認日	2024年3月18日
----------	------------	---------	------------

- ① 2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが2類相当から5類の位置づけとされることとなった。それにむけて学生厚生委員会と連携し、厚生労働省、文部科学省等の発出する情報を整理するとともに、他大学、他キャンパスの状況を確認の上、安全対策実施本部会議に働きかけた。混乱なくかつゆるやかに以前の教育活動に戻すこととした。感染症への注意は呼びかけつつ、後学期にはコロナ禍以前の状況に戻った。

**根拠資料** ・4月教務委員会資料

- ・4月千葉キャンパス安全対策実施本部会議資料(2023年度新型コロナウイルス5類移行に向けたキャンパスごとの対応比較表、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけ変更後の学生生活について(5月8日以降))

- ② 全学共通基礎教育科目(S-BASIC科目)、補充授業、新・追加履修制度など2023年度入学生から新しい教育システムが導入されることとなった。これら新教育システムについて教授会報告やS-Naviによる配信を通じて、教職員に十分に説明した。また、学生に対しては教務オリエンテーションにおいて説明を行った。また、アドバイザー教員による履修指導は、1・3・4年次生に対しては、各学期の初回授業時に「履修登録チェックシート」を活用して実施した。2年次生に対しては、アドバイザー教員によるS-Navi上のチェックを実施し、必要に応じて適宜個別指導を行った。

**根拠資料** 全学共通基礎教育科目(S-BASIC科目)、補充授業、新・追加履修制度など2023年度入学生から新しい教育システムが導入されることとなった。これら新教育システムについて教授会報告やS-Naviによる配信を通じて、教職員に十分に説明した。また、学生に対しては教務オリエンテーションにおいて説明を行った。

- ③、④ 留学生への対応は、国際交流センターやアドバイザーと連携の上、履修指導を行うようにした。また、障がい学生が授業において不利益が生じないよう学生サポートセンターから教員に対して配慮依頼を行った。また、障がい学生本人から提出された修学支援申請書(配慮願)をもとに、教務・教学委員長・アドバイザーとの面談を実施し、必要な配慮を検討した結果を各科目の担当教員に周知した。2023年度の編入性はなかった。

**根拠資料** ・4月・9月教務委員会資料(授業中における障がい学生等配慮のお願い、障がい学生に対する授業および試験方法に関するガイドライン 前・後学期共通)

- ⑤ 下記期間にシラバス作成に関するFDの実施及びシラバスチェックを教学委員会、教育向上委員会の共催で実施した。2024年度における主要授業科目・遠隔授業対象科目への表記、実務家教員に関する調査等について各種変更事項について適切に周知及び管理を行った。

- シラバス作成に関するFD 2024年1月18日～2月1日（オンデマンド）
- シラバスチェック 2024年3月5日～3月7日

**根拠資料** ● 1月・2月教務委員会資料（2024年度シラバス作成方法に関するFD次第、シラバス作成要領等の説明、主要授業科目と遠隔授業対象科目について、2024年度シラバスチェック方法検討会議（事前打合せ））

### 3 点検・評価

### Check

- ① 新型コロナウイルス感染症に関する厚生労働省、文部科学省等の発出する情報や他機関の動向を精査することによって、また関係機関との連携によって、教職員や学生の不安もふまえつつ対応したため、ゆるやかに平常時の教育活動に戻すことができた。また、感染症の取り扱い（出席扱い等）の変更についても周知徹底できた。
- ② S-BASIC科目、補充授業、新・追加履修制度など2023年度入学生から適用される新しい教育システムについて教授会報告やS-Naviによる配信を通じて教職員に十分に説明することによって、アドバイザー担当教員が学生に対して適切に指導することができたと思われる。ただ、新制度と旧制度が同時に進行しているため若干混乱がみられ個別対応の必要が生じた。
- ③ 「修学支援申請書（配慮願）」により、申し出がなされた学生に対し教務委員長又は教学委員長と教務事務担当同席の元、建設的対話を通して、学生の申し出と大学組織として配慮可能な配慮の範囲について相互確認を行うことができ、当該学生の修学上の懸念を解消することができた。
- ④ 2021年度までに編入した学生に対しては、アドバイザーによる履修指導を基本としながら、国際交流センター等関係部署と連携をしてサポートすることができた。
- ⑤ FDを通じてシラバスに含めるべき事項及び記入上の留意事項について周知することができた。オンデマンド配信形式で実施することで、後日、必要に応じて再視聴できる状況を提供することができた。

### 4 改善方策及び改善計画

### Action

- ① 2024年度から遠隔授業やブレンド型授業が一部実施されるが、必要に応じてその成果について検証する。また、高等教育改革をめぐる動向をふまえた各種対応も教務委員会で適宜行う。
- ② S-BASIC科目、補充授業、新・追加履修制度など2023年度入学生から適用される新しい教育システムとそれ以前の教育システムとが同時に進行していくことになるが、教職員や学生の中に混乱のないよう教授会報告やS-naviによる配信を通じて、引き続き新教育システムの周知徹底をはかる。また、それらの教育成果について適宜検証していく。
- ③ 留学生、障がい学生など特別な配慮が必要な学生に対してきめ細やかな支援ができるよう学生厚生委員会及び学生サポートセンター等と連携し、個々の置かれた状況に応じて適切な配慮ができるよう工夫する。
- ④ 編入学生希望者に対しては、個々の置かれている状況に応じて教務委員（編入学生）を中心に対応する。
- ⑤ FDにおいて、履修登録や学修に活用できるシラバス作成に資するように、シラバスチェックにおいて指摘されることが多い事項を中心に説明する。適宜、文部科学省の通知等が求める内容も取り入れる。

## 総合福祉研究科（教育課程・学生の受入れ）

関連方針	12-3. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針 2-2. 大学として求める教員像、教員組織の編成方針		
関連成果指標	1-10-1、1-10-2、1-10-3、1-10-4、6-7-1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

第1部

IV

学部・研究科等による取組み

1

千葉キャンパス

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月17日	担当組織確認日	2023年4月25日
----------	------------	---------	------------

- ① 保育、発達臨床コースへ在校生の入学学生を入れる広報活動の強化
- ② 社会福祉コースのある高校・千葉市、県等への募集活動をアドミッションと連携
- ③ 学内広報の充実による受験生紹介の強化

## 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月31日	担当組織確認日	2024年3月31日
----------	------------	---------	------------

- ① 保育、発達臨床コースへ在校生の入学学生を入れる広報活動の強化
  - 学内向けの説明会を実施し臨床発達心理士の内容・資格についてガイダンスを行った。特に、教育福祉学科を中心とした保育、幼稚園、特別支援学校の教員を目指している学生を意識し、説明会を企画した。また、「発達臨床研究センター」で実習生に、担当教員から大学院進学の見学機会もあることなど情報提供を行った。
- 根拠資料 学内向け大学院説明会資料、総合福祉研究科専攻主任会議議事録
- ② 社会福祉コースのある高校・千葉市、県等への募集活動をアドミッションと連携
  - 専門学校への淑徳大学院の情報提供に出向く。未だ専門学校教員に修士課程を卒業していない人を対象に大学院への進学への募集活動を行った。
- 根拠資料 総合福祉研究科専攻主任会議議事録
- ③ 学内広報の充実による受験生紹介の強化
  - 臨床発達心理士の資格ガイダンスを行い、学部生に大学員進学における情報提供を行った。
  - 大学協議会等で本学教職員の入学者の募集について広報した。
  - 看護学研究科院生へ募集活動を行った。
  - 同窓会組織へ募集活動の広報を実施した。
- 根拠資料 総合福祉研究科専攻主任会議議事録

## 3 点検・評価

Check

- ① 2024年度、教育福祉学科から学部卒業生が1名、社会福祉学専攻修士課程へ入学した。
- ② 社会福祉コースのある高校・千葉市、県等に対し、アドミッションへ募集活動を依頼したこととどまっておらず、アドミッションとの連携した募集活動が出来ていない。
- ③ 社会福祉専攻における学内で実施した入試ガイダンスに参加した学部卒業生が大学院の入学に結びついた。心理学専攻のガイダンスは、20名以上の出席があり、入学に結びついている。

## 4 改善方策及び改善計画

Action

- ① 臨床発達心理士についてわかりやすいチラシを作成し、幅広く広報できるように工夫することで入学者の確保
- ② アドミッションの協力を得られるように粘り強く依頼をしていく。また、連携のための会議が実施できるようにあきらめずに働きかけていく。
- ③ 2024年度同様の入学者確保（本学他学部卒業生への募集活動を実施を試みる）

## 総合福祉研究科（学生支援）

関連方針			
関連成果指標	1-10-1、1-10-2、1-10-3、1-10-4、6-7-1		
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月17日	担当組織確認日	2023年3月31日
----------	------------	---------	------------

- ① 学習成果の効果測定がなされるための測定方法の見直しを行う
- ② 社会福祉研究所における研究手法講座等の共同開催における研究推進
- ③ キャリア支援センターとの連携におけるキャリア支援の実施
- ④ 心理学 公認心理士受験対策の内容検討
- ⑤ 図書館の使用方法、文献検索の方向性のプログラム化
- ⑥ 看護研究科との協同強化（合同授業等での学び合いの実施）

## 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月31日	担当組織確認日	2024年3月31日
----------	------------	---------	------------

- ① 学習成果の効果測定がなされるための測定方法の見直しを行う
  - これまでに行っていたループリックによる自己評価とDPに照らし合わせて評価する方法の2種類を実施した。
  - 根拠資料** 学内向け大学院説明会資料、総合福祉研究科専攻主任会議議事録
- ② 社会福祉研究所における研究手法講座等の共同開催における研究推進
  - 「質的研究デザインの考え方と科研費申請」の講座を実施した。
  - 根拠資料** 研修会チラシ・総合福祉研究科専攻主任会議議事録
- ③ キャリア支援センターとの連携におけるキャリア支援の実施
  - 大学院修了前にキャリア支援を受けられるようにその方策を検討する。
  - 根拠資料** 総合福祉研究科専攻主任会議議事録
- ④ 心理学課程の院生が受験する公認心理士受験対策の内容検討
  - 公認心理士に対する受験対策指導のあり方を検討した。その結果、修士論文作成の日程を調整し、受験勉強に専念できるように工夫した。
  - 根拠資料** 総合福祉研究科専攻主任会議議事録
- ⑤ 図書館の使用方法、文献検索の方向性のプログラム化
  - 図書館の使い方、特に文献検索等の方法を学ぶプログラムを作成し、試行的に実施した。
  - 根拠資料** 実施要項
- ⑥ 看護研究科との協同強化（合同授業等での学び合いの実施）
  - 合同授業に取り組み11名の院生が履修した。履修した院生からは、研究計画に役立つ内容であったとの意見が散見された。
  - 客員教授による講義へ看護研究科教員、院生へ案内し、合同講義を実施した。（院生及び教員の研究力向上を目的に、金子客員教授、蒲原客員教授による定期的な特別講義を開催した。23年度は5回の特別講義を行った）
  - 根拠資料** 講義シラバス・客員教授特別講義実施チラシ

## 3 点検・評価

Check

- ① これまでに行っていたループリックによる自己評価とDPに照らし合わせて評価する方法の2種類を実施した。全員の提出となっていないため、回収率を高める工夫が必要である。
- ② 研究手法講座には、院生と教員とが学べる機会となっており、50名ほどの高い参加率であった。
- ③ キャリア支援j室から院生向けに特化した就職における情報提供が行われ、就職内定率も高いが統計

的処理による効果測定が行われていない。また、構造化されたキャリア支援がなされていないのでさらなる検討が必要である。

- ④ 論文提出日を調整することで論文作成と受験勉強が期間的に分けられるように工夫し、どちらにも力を入れて学習できるようにした。この結果は、2024年度に振り返りを行う。
- ⑤ 図書館活用(文献検索)のためのプログラムを作成し、実施した。受講生から入学の早い時期に受講したいという希望が出たために同じプログラムを2024年度4月に実施する予定となった。
- ⑥ 看護研究科との合同の講義等により学際的な学びを推し進める機会の創出となった。

#### 4 改善方策及び改善計画

*Action*

- ① 倫理教育の充実
- ② 公認心理士受験対策・発達臨床心理士受験対策の充実
- ③ 研究手法等の学習プログラムの作成と実施
- ④ キャリア支援の充実

## 総合福祉研究科（研究活動）

関連方針			
関連成果指標			
前回点検評価実施年度	2022年度	次期評価実施年度	2024年度

## 1 2023年度の目標及び計画

Action・Plan

目標・計画策定日	2023年3月31日	担当組織確認日	2023年4月25日
----------	------------	---------	------------

- ① 『淑徳大学大学院総合研究科研究紀要』の次号発行。
- ② 『淑徳心理臨床研究』の次号発行。
- ③ 社会福祉研究所における「研究手法講座」の共同（後援）開催。
- ④ アジア国際社会福祉研究所のVRにおける博士論文提出への協力。

## 2 計画の取組み状況

Do

点検・評価実施日	2024年3月31日	担当組織確認日	2024年3月31日
----------	------------	---------	------------

- ① 『淑徳大学大学院総合研究科研究紀要』30号。  
根拠資料『淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要30号』
- ② 『淑徳心理臨床研究』の21号発行。  
根拠資料『淑徳心理臨床研究21号』
- ③ 社会福祉研究所における「研究手法講座」の共同（後援）開催。  
根拠資料「研究手法講座」のチラシ・専攻主任会議議事録
- ④ アジア国際社会福祉研究所のVRにおける博士論文提出への協力。  
根拠資料 専攻主任会議議事録

## 3 点検・評価

Check

- ① 『淑徳大学大学院総合研究科研究紀要』30号発行済み。（論文4編、研究ノート1編、その他）
- ② 『淑徳心理臨床研究』21号発行済み。（論文編）
- ③ 社会福祉研究所における「研究手法講座」の共同（後援）開催を実施済み。（「質的研究デザインの考え方と科研費申請」の講座）
- ④ VR制度の博士論文作成者を社会福祉専攻の研究生とし、論文指導を実施した。

## 4 改善方策及び改善計画

Action

- ① 社会福祉学専攻においては、院生の学会出席の活性化を図る。
- ② 倫理教育の充実。
- ③ 社会福祉研究所における「研究手法講座」の共同（後援）開催。
- ④ 『淑徳大学大学院総合研究科研究紀要31号』、『淑徳心理臨床研究22号』の発刊。